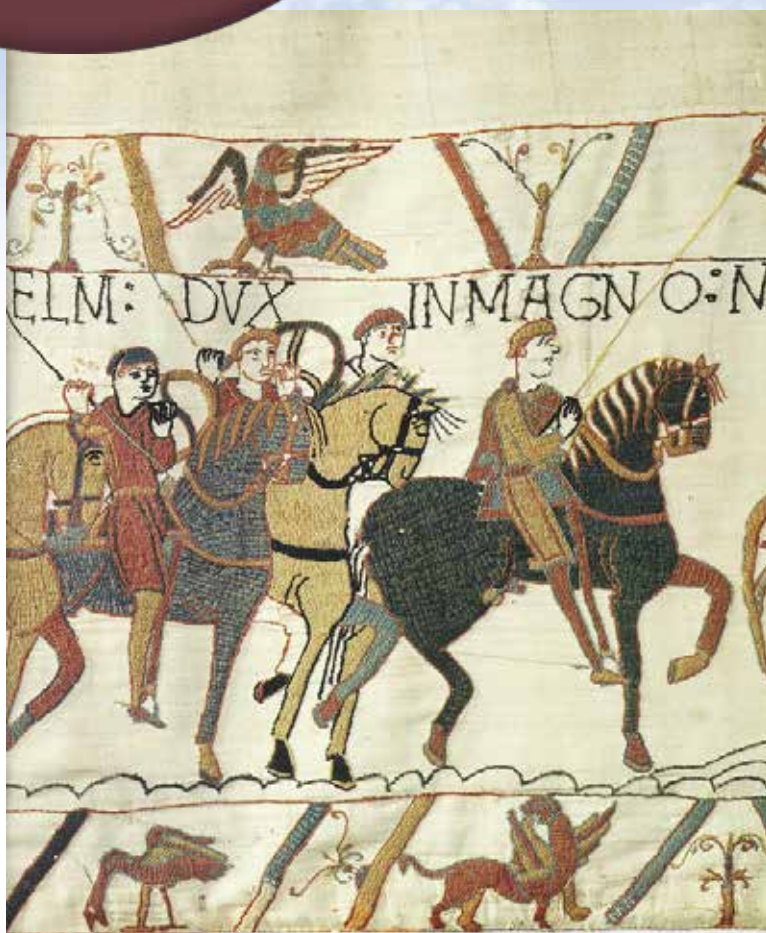




カラー版『バイユーのタペストリー：全編』

The Bayeux Tapestry : the complete tapestry in colour / with introduction, description and commentary by David M. Wilson -- London : Thames and Hudson , c1985

CONTENTS

●本好きのための本に関する本	2 頁
●図書館長からのメッセージ	
「私の歴史研究と大学図書館」 神奈川大学図書館長 丹野 勲	4 頁
●横浜図書館6-8月展示 「元気のもとスポーツ！」	5 頁
●洋書通信 洋書で読むディストピア作品の名作	6 頁
●図書館の所蔵資料紹介	
Japanese fairy tale series 『ちんちん小袴』 ラフカディオ・ハーン	7 頁
図書館からのお知らせ 今号の表紙 / 編集後記	8 頁

本好きのための本に関する本



マティアス・ストーム
《蠟燭の灯りで読書する若者》
1628-32 年頃

2023 年度文化庁の「国語に関する世論調査」によると、1 か月に 1 冊も本（電子書籍を含む）を読まない人の割合が初めて 6 割を超えたという結果になったことがわかりました。読書量が以前より減っていると答えた人も 7 割近くになり、その理由としてスマホやタブレットなどの情報機器の利用が増えたためという回答が半数近くを占めました。しかし本好きの人々にとって、このようなニュースはどこか別の惑星の出来事としか思えません。本好きには本を読まないなどということは想像すらできません。また文字が読めればいいというものでもありません。何よりも本という存在が好きなのです。便利な電子書籍も本好きの心をくすぐりますが、本というモノの魅力には抗えません。そんな本好きの人々のために本に関する本をご紹介します。



図説本の歴史（ふくろうの本） / 樺山紘一編 — 河出書房新社, 2011

請求記号：B020.2-78（横浜） D020.2-36（みなとみらい）

世界を変えた 100 の本の歴史図鑑：古代エジプトのパピルスから電子書籍まで / ロデリック・ケイヴ, サラ・アヤド著；大山晶訳 — 原書房, 2015

請求記号：B020.2-91（横浜）

本の誕生、歴史を知る。本とはいっ生まれ、社会によってどう変わり社会をどう変えたのか。本は昔から今と同じ形だったのか？古代メソポタミアではすでに“タブレット”が使われていたことを知っていましたか？

美しい書物の話：中世の彩飾写本からウィリアム・モリスまで / アラン・G・トマス著；小野悦子訳 — 晶文社, 1997

中世の装飾写本からプライベート・プレスまで。本の美しさとその歴史を綴った、本好きが大喜びする本。

請求記号：B020.2-46（横浜）

定本 庄司浅水著作集 書誌篇 全 14 巻 — 出版ニュース社, 1979-1983

請求記号：B020.8-2（横浜）

書誌学研究家庄司浅水氏の著作集。本の歴史から印刷、装丁、古本屋まで。全 14 巻に本の全てが載っている。



美しい書物『マインツ詩篇』

西洋活字の歴史：グーテンベルクからウィリアム・モリスへ / スタン・ナイト著；安形麻理訳 — 慶應義塾大学出版会，2014

15世紀から20世紀初頭にかけて作られ、現在使われているフォントの元にもなっている美しい金属活字を写真とともに解説する。

請求記号：B749-89（横浜）



本と活字の歴史事典 / 印刷史研究会編 — 柏書房，2000

長い間木版印刷を続けてきた日本の印刷。キリシタン版と呼ばれる日本最初の活版印刷以降の歴史が学べる本。

請求記号：B022-50（横浜）



羊皮紙の世界：薄皮が秘める分厚い歴史と物語 / 八木健治著

東京：岩波書店，2022

羊皮紙とは動物の皮を薄く加工したもの。古代から本のページに使われており、現代でも記録文書などに使われることがある。本というモノを作る文化の奥深さがわかる一冊。

請求記号：D584-2（横浜）

シェイクスピアのファースト・フォリオ：偶像となった書物の誕生と遍歴 / ピーター・W.M. ブレイニー著；五十嵐博久監訳 — 水声社，2020

フォリオとは全紙をまん中から二つに折った大きさの判を指す。ファースト・フォリオとは、シェイクスピアの死の7年後1623年に36篇の戯曲をまとめて出版した初めての作品集を指し、出版史上最も価値のある本の一つと言われている。

請求記号：D022-29（横浜，みなとみらい）



本棚の歴史 / ヘンリー・ペトロスキー著；池田栄一訳 — 白水社，2004

その昔、本は立てて並べられていなかった。必要な本を取り出す時の苦勞、そして増え続ける本。どうしたら探しやすいのか、収納場所をどうやって増やすのかは、いつの時代も愛書家にとっては悩みの種である。本棚にも進化と歴史があったことがわかる本。

請求記号：B012-20（横浜）



書物の敵 / ウィリアム・ブレイズ著；高橋勇訳 — 八坂書房，2004

ウィリアム・ブレイズは19世紀イギリスの印刷工、書誌学者であり『ウィリアム・キャクストンの生涯と印刷術』の著者である。書物の敵はカビ、埃、水気、不適切な温湿度、虫だけに限らない。最大の敵は、その価値を知らないまま本を扱うヒトである。

請求記号：B020.4-53（横浜）

『私の歴史研究と大学図書館』

神奈川県大学図書館長 丹野 勲



私は、数年前まで長年にわたって「戦前期の日本企業の東南アジア・南洋進出の歴史と国際経営・日本人移民」をテーマとする研究を行った。その成果として『日本企業の東南アジア進出のルーツと戦略：戦前期南洋での国際経営と日本人移民の歴史』（同文館）、『戦前の南洋日本人移民の歴史：豪州、南洋群島、ニューギニア』（御茶ノ水書房）などを出版した。

この研究では、明治維新から戦前昭和期までの日本企業の東南アジア・南洋進出と国際経営、および南洋日本人移民の歴史について研究したものである。そして、日本企業の東南アジア進出のルーツが、戦前期の南洋進出にあったことを明らかにしたものである。日本企業は戦前期においても日本人南洋移民を伴い、外南洋と呼ばれていた東南アジア、および内南洋と呼ばれていた南洋群島という南洋において活発に国際経営を行っていた。地域的にも東南アジアや南洋群島のみならず、豪州、ニューカレドニア、ニューギニアにも日本人移民は進出していた。しかし、戦前期の日本企業の東南アジア・南洋進出は、サイパン等の南洋群島での拓殖事業、フィリピンのダバオでのマニラ麻栽培、マレー等でのゴム栽培と鉄鉱石開発が比較的知られているが、戦前期の南洋進出の全貌についてはあまりわかっていない。戦前期の日本企業や日本人移民の東南アジア・南洋進出について、歴史、国際経営、移民論、南進論、経営史、貿易、経営戦略、地域研究、国際政治など多角的な視点で、忘れられていた戦前期の日本企業の南洋進出と南洋日本人移民の歴史について明らかにした。

このような歴史研究では、戦前の文献・史料を多く蒐集する必要があり、当時の研究書、書籍、政府出版物、外交資料、南洋調査機関の報告書などを調べた。その際、湘南ひらつかキャンパスの図書館に大変お世話になった。本学は、歴史関連の文献が多く大学図書館に所蔵されており、大いに研究で利用させていただいた。本学にない文献や資料については、本学の図書館から依頼して、他大学等の図書館や、国立国会図書館等から現物の本や資料を取り寄せていただいた。そのおかげで、貴重な歴史文献を調べることができた。歴史研究では、文献・史料の収集・分析を中心とするため、図書館の役割は極めて高いと感じた。

戦前期の日本企業の南洋進出の研究を行っていて気が付いたのは、戦前・戦中期の南洋進出に関する多くの文献が、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）によって発禁、没収（焚書）されていたことである。本研究では、学術的価値のあるGHQ焚書をできるだけ発掘するように心がけたが、限界もあった。戦後において現在まで、戦前期の南洋での日本の国際経営に関する研究はほとんどないという理由の1つは、戦後GHQによって南方・南洋関連の多くの本が発禁、没収（焚書）されたという事情もあるかもしれない。

私の研究で極めて有用であったのが、国立国会図書館のデジタルコレクションであった。これは、国立国会図書館が所蔵している書籍をデジタル化したもので、戦前に出版された本の多くがリストアップされ、私のパソコン上で本を読むことができる。また、外務省の外交史料館のデジタル・アーカイブも有用であった。これは、幕末以来の日本の外交史料を保存した外務省の公文書館であり、明治以降の主要な外交史料のデジタル公開を行っている。私のパソコンで、当時の貴重な外交資料をみて、調べることができた。このように、歴史研究では図書館に所蔵されている書籍・資料、またデジタル公開資料は研究上きわめて有用であるので、ぜひ大学図書館を利用し、活用していただきたい。

横浜図書館 6-8 月展示「元気のもとはスポーツ！」

神奈川県横浜図書館では6月から8月にかけて2階展示ギャラリーにて「元気のもとはスポーツ！」と題して展示を行いました。日本における体操の歴史に関する資料、アメリカ大リーグのスターが表紙を飾るグラフィック誌「LIFE」、日本が最初に参加したオリンピックの1912年ストックホルム大会、ヒトラー政権下の1936年ベルリン大会の公式記録など、図書館所蔵の貴重な資料の数々を紹介しました。今回展示した資料は展示終了後、横浜図書館地下書庫に配架されており手に取って閲覧できるものもあります。ぜひ一度ご覧ください。



日本にデンマーク体操を伝えたニルス・ブックの『ニルス・ブック体操アルバム』 1931年刊
請求記号：B781-113



日本が最初に参加した
1912年オリンピック
ストックホルム大会公式記録

請求記号：A780.69-16



1955年当時の神奈川大学の広報が掲載されている国体プログラム
第10回国民体育大会 / 神奈川県編、
1955年刊

請求記号：B780.69-31



『昭和七年度夏期ラジオ体操会』
日本放送協会関西支部 1932年刊

請求記号：B781-106

『ラジオ体操を語る』 簡易保険局
1936年刊

請求記号：B781-109



写真誌『LIFE』の表紙を飾る大リーグのスター選手達
請求記号：PA053.5-1B

洋書通信

洋書で読むディストピア作品の名作

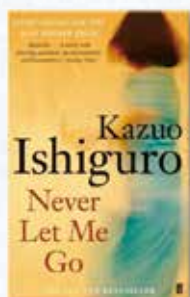
ディストピアとは理想郷を意味する“ユートピア”の反対、暗黒の世界や反理想郷の世界を意味する言葉です。近未来の恐るべき世界をテーマにしたディストピア小説には傑作とされている作品も多く、根底には人間性への不信と急速な科学技術の進歩に対する不安感、巨大な管理システムによって生み出される自由の抑圧などが描かれています。ベストセラーになった作品もあり、読んだことがある人も多いかもしれません。本学図書館が所蔵する洋書で読めるディストピア小説をご紹介します。

ウィリアム・ギブスン『ニューロマンサー』

Neuromancer / William Gibson -- London : Gollancz, 2017

初版は1984年に出版。SF小説のジャンル、サイバーパンク小説の代表的な作品である。テクノロジーとネットワークに覆われた未来が描かれる。

請求記号：C933.7-2089（横浜）



カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』

Never let me go / Kazuo Ishiguro -- London : Faber and Faber, 2006,

「提供者」として生きる子供たちの物語。ディストピア小説に特有の恐怖に満ちた世界観とは異なる悲しい世界が描かれる。

請求記号：C933.7-1709（みなとみらい）

オルダス・ハクスリー『すばらしい新世界』

Brave new world / Aldous Huxley ; retold by H.A. Cartledge. new ed. -- Harlow : Pearson Education, 1999

初版は1932年出版。誰もが幸福で清潔で新しいものだけに囲まれた不安のない社会。しかしそこは徹底した階級差別のもとに管理された社会であった。ディストピア小説の代表的名作。

請求記号：A083-41945-26（横浜）

請求記号：C837-6-16（みなとみらい）

マーガレット・アトウッド『侍女の物語』

The handmaid's tale / Margaret Atwood -- London : Vintage Classics, 2024,

請求記号：C933.7-2087（横浜）

El cuento de la criada / Margaret Atwood ; traducción del inglés por Elsa Mateo Blanco -- Barcelona : Seix Barral, c1987（スペイン語版）

請求記号：A933-757（横浜）

近未来のアメリカ、宗教国家のギレアデ共和国では出生率が異常に低下し健康な女性は子供を産むための侍女として生きることを強制された世界を描く。初版は1985年に出版、1990年に映画化、2017年にドラマ化されている作品。



Japanese fairy tale series
ちんちん小袴 / ラフカディオ・ハーン

Chin chin Kobakama / rendered into English by Lafcadio Hearn -- Tokyo : T. Hasegawa , 1903

請求記号：A388-25-113（貴重資料）

日本の明治時代にはとても珍しい本が作られた。日本の昔話やおとぎ話が外国語で書かれ、日本画の挿絵が添えられ、布のような縮緬状に加工された紙を使った華奢な和装本である。この美しい和装本は「ちりめん本」と呼ばれる。その刊行が日本橋の輸入品を扱う商家に生まれた長谷川武次郎によって開始されたのは明治 18（1885）年のことである。欧米などの外国人に向けた日本文化の紹介として英語やドイツ語、フランス語、スペイン語などで書かれたちりめん本は日本旅行の土産物としても人気があった。「日本お伽噺シリーズ」として刊行され、本文の翻訳は、夫の仕事で来日し東京に住んでいた T.H.ジェイムズ夫人や和英語林集成の編纂で知られる J.C.ヘボン、日本古典文学研究の大家 B.H.チェンバレンなどが担当した。1890 年に来日したラフカディオ・ハーンも 5 冊の翻訳に携わっている。

1896 年に帰化し小泉八雲と改名したラフカディオ・ハーンは来日前のアメリカでは新聞記者、作家として活躍しており、日本で生活した 14 年間、毎年のように日本に関する本を出版した日本研究者である。英語教師として教壇に立つかわら日本人の行動や精神性といった内面から理解を深め、日常生活で見聞した体験や伝説などからその風俗や習慣を考察し、数々の著作で日本文化を世界に発信した。また、古くから伝わる物語を翻訳するだけではなく作家独自の表現をもって書き直した「再話物語」と呼ばれる文学作品『怪談』は、今でも広く知られている。

本書『ちんちん小袴』は「日本お伽噺シリーズ」の一作品で、古くから伝わる民話を元に書かれている。小さい時から何でも奉公人にしてもらって育ったお嬢さんが、嫁いでからも相変わらずだらしのない生活をしていると、ある晩から小さな侍たちがたくさん現れて枕もとで歌い踊り、眠ることができなくなってしまう、というお話。

この話は日本の複数の地域で伝えられる付喪神の民話が元だそうだ。ハーンは物語を始める前に日本の家の生活について書き加えている。日本の家には厚くて柔らかいシート（畳）が敷かれ、寝るのも食事ともその上で行い、土足で上がるようなことはせずいつもきれいにされているとある。また、日本の子供はお人形やおもちゃを大切に扱い、それは幼い時から母親に教えられると書いている。なかにはきちんとできない子もいて、この物語のお嬢さんは・・・というユーモラスなお話が始まる。

ハーンは明治時代の日本人の美しさを書き残した作家である。そこには今や日本人が失ってしまった、あるいは捨ててきた生活習慣や美しいふるまいの多くが記されている。このお話の冒頭にはものを大切に扱い、ていねいに暮らす日本人の生活が書かれている。それから 120 年以上経った今、我々がかつてハーンが見た日本の姿に価値を見出すようになったのかもしれない。自然の素材に囲まれた住居や生活への憧れ、希薄になった住人同士のコミュニケーションや自分達が生きる地域を活性化させようとする取り組み。我々はハーンが愛し書き記した時代の日本の良さを取り戻そうとしているのだろうかと思うのである。

このちりめん本の特徴の一つ。本学図書館の所蔵資料は（ページの）十丁目の裏と十一丁目の裏の本文が入れ替わっている珍しい和装本である。



（図書館事務部図書課 荏原 直子）

図書館からののお知らせ

横浜・みなとみらい共通

■冬季長期貸出について

対 象……学部生
貸出受付期間……2024年12月3日(火)～12月26日(木)
返却期限日……2025年1月11日(土)
冊 数……10冊

■春季長期貸出について

対 象……学部生(卒業年次生)
貸出受付期間……2025年1月20日(月)～3月6日(休)
返却期限日……2025年3月21日(金)
冊 数……10冊
対 象……学部生(在校生)
貸出受付期間……2025年1月20日(月)～3月24日(月)
返却期限日……2025年4月8日(火)
冊 数……10冊

■年末年始の休館日について

2024年12月27日(金)～2025年1月5日(日)

■スマートフォンのアプリを使用した図書の貸出サービスについて

図書館のカウンターに立ち寄ることなく、資料の貸出を受けることができます(一部の例外資料を除く)。貸出手続きの方法については、Ufinity簡易利用ガイドをご確認ください。



横 浜

■一般公開休止について

後期試験実施に伴い、以下の期間中の一般公開を休止いたします。

期 間……2025年1月6日(月)～1月28日(火)

編集後記

今から130年前の明治27年『知られざる日本の面影』という本が出版された。その中の一遍「日本人の微笑」には当時日本に在住していた外国人達が複雑な日本人の微笑を理解できず、時には誤解から騒動に発展することもあると書かれている。その随筆の著者はラフカディオ・ハーン、日本名小泉八雲である。

ハーンは明治23年に来日、日本の文化や習慣についてその行動や精神性といった内面から理解を深め、日本研究に関する多くの著作を書き残した人物である。「耳なし芳一」や「むじな」などの作品集『怪談(Kwaidan)』の著者としても広く知られている。

随筆「日本人の微笑」は日本人の習慣、感情、表現について書かれた作品であり、外国人が理解できない微笑－日本人がたえずその顔に浮かべ、微笑むべきでない時に微笑むこと－について考察している。ハーンは、日本人の微笑は礼節によるものであるとしている。苦しいことや恐ろしいことを人に語る場合、相手にとって話が不快にひびく時、その報告は当人の口から微笑をもって語られなくてはならないというこの国の習わしであり、それは自己を殺しても礼節を守ろうとするぎりぎりの表現であると書いている。

これを読んで思い浮かぶことがある。それは自然災害などで被害を受けた日本人がテレビのインタビューに答えている時にとても穏やかな表情をし、時には困ったような微笑みさえ浮かべることだ。その微笑みは、祖先から脈々と受け継がれている日本人特有の感情表現であり、苦しく辛い目に遭った人のその微笑は、随筆に書き記された明治の日本人の微笑そのものであるように思える。そして今から百年以上前に小泉八雲という人物が日本人の微笑を理解し、その作品に書き記してくれたことに深く感動するのである。(N.E.)

今号の表紙



The Bayeux Tapestry : the complete tapestry in colour / with introduction, description and commentary by David M. Wilson -- London : Thames and Hudson , c1985

《バイユーのタペストリー》は1066年のノルマンディー公ウィリアムによるイングランド征服の物語を約70mの長さの白いリネン生地に刺繍した作品。1070年代に制作されたと推定され、フランスのバイユー大聖堂に保管されていた。本書はその刺繍絵を全編カラーで撮影した本である。

請求記号：A 750-23 (横浜)